

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第47週（11月18日～11月24日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ」 流行期入り

第47週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,197例であり、前週より微増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、RSウイルス感染症、手足口病の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.49、2.50、0.60、0.59、0.48であった。感染性胃腸炎は前週比5%増の1,081例で、南河内11.69、大阪市北部7.50、中河内7.45、大阪市西部7.22、同南部5.78である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は1%減の493例で、大阪市西部3.56、泉州3.40、堺市3.21、北河内3.04、南河内2.75であった。伝染性紅斑は3%増の119例で、南河内2.75、泉州1.00、中河内0.55である。RSウイルス感染症は24%減の116例で、大阪市西部1.33、南河内1.00、大阪市北部0.79であった。手足口病は2%減の94例で、大阪市南部0.94、中河内0.85、北河内0.67である。インフルエンザは43%増の363例で、定点あたり報告数は1.21で、流行開始の目安の1を超え、流行期入りした。大阪市西部3.14、堺市2.03、南河内1.58、大阪市北部1.45、北河内1.33、大阪市東部1.14である。

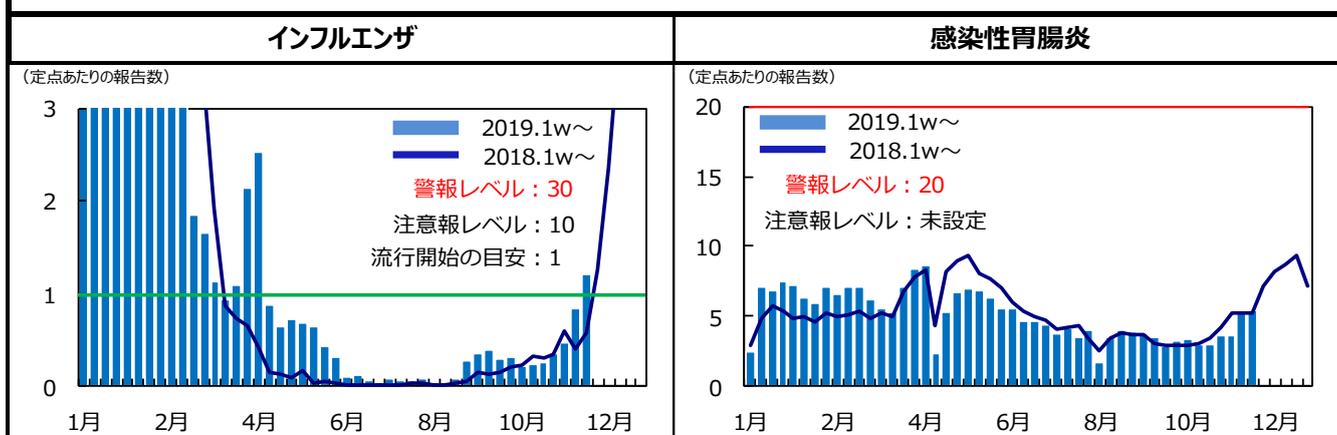


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第47週11月18日～11月24日）

第47週の順位	第46週の順位	感染症	2019年 第47週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第47週の 定点あたり 報告数	2019年第47週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.49	5%増	5.17	1歳_17%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	1%減	2.25	5歳_17%
3	4	伝染性紅斑	0.60	3%増	0.38	4歳5歳_19%
4	3	RSウイルス感染症	0.59	24%減	0.49	1歳未満_39%
5	5	手足口病	0.48	2%減	0.50	1歳_36%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	1.21	43%増	0.57	20歳以上_21%

第47週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2019年の梅毒報告数は900例を超えたが、2018年同時期を下回っている

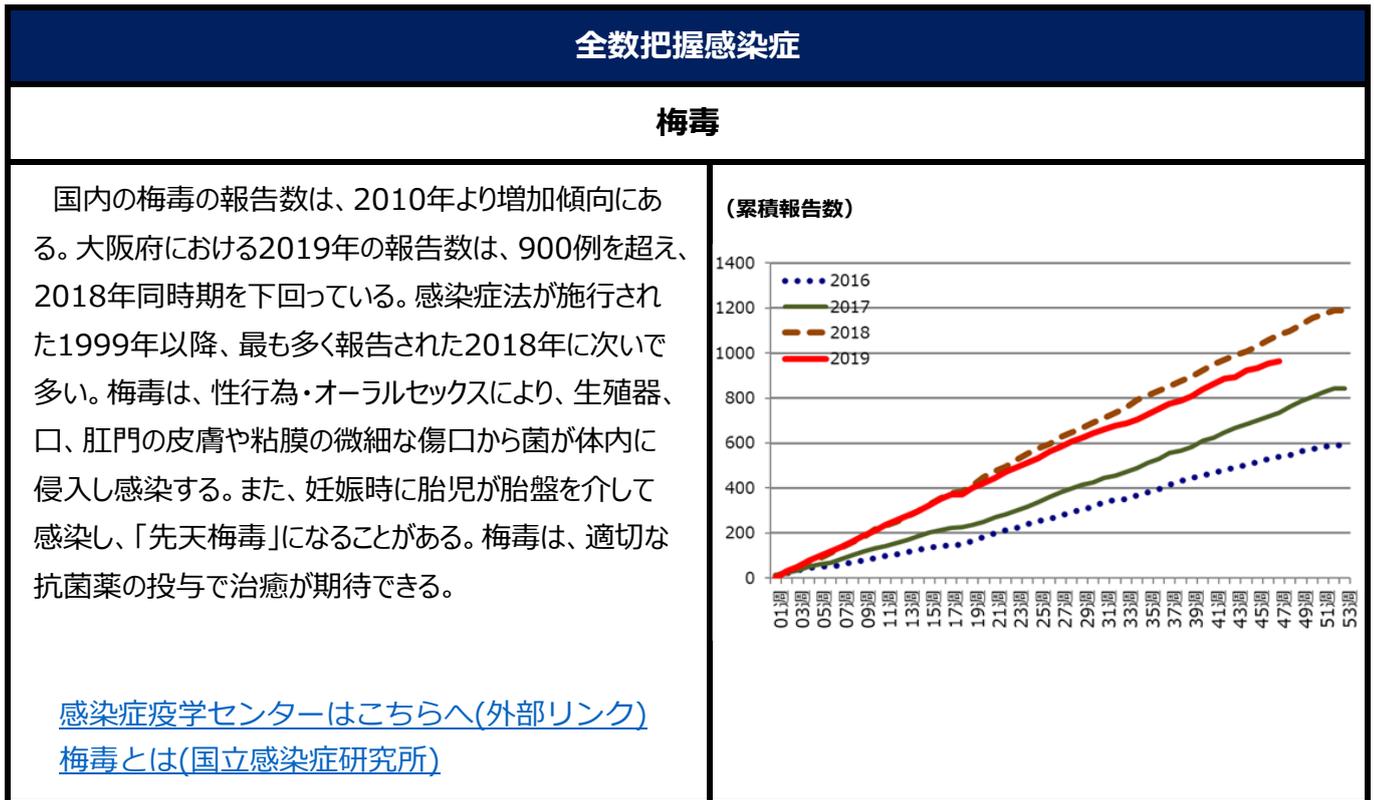


表2. 大阪府全数報告数（2019年 第47週11月18日～11月24日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 〔 〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
3類感染症	細菌性赤痢 (<i>S. flexneri</i>)	1								1	9
	腸管出血性大腸菌感染症	3	1			1			1		179
4類感染症	E型肝炎	1								1	5
	A型肝炎	1							1		22
	デング熱	1								1	51
	レジオネラ症（肺炎型）	3	1		1					1	118
5類感染症	アメーバ赤痢	2								2	65
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2		1			1				182
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		1							58
	後天性免疫不全症候群	2								2	118
	侵襲性肺炎球菌感染症	6		1				1	1	3	239
	梅毒	9			1				2	6	962
	播種性クリプトコックス症	1								1	8
百日咳	7		2		1		1	1	2	781	
結核 (2019年9月分)	結核 新登録患者数：120名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 45名) 府内累積報告数 1,236名、内 肺・喀痰塗抹陽性 482名										

(2019年11月26日 集計分)